

2023 就職状況 2024 就職活動

2023年度卒の就職活動は、コロナの緊急事態宣言下に入學した2020年度入学者が主な対象となった。学生時代に力を注いだ経験に乏しく何をアピールすればよいのか、やろうと思っただけで十分ではないまま就職活動をはじめたのか。そんな悩みを抱えながら進路の選択に向かった学生たちの就職活動を概観するとともに、次年度の見通し、卒業生から先輩へのメッセージを掲載する。

2023年度 就職活動の総括・本学の状況

大卒者の有効求人倍率は、1・71倍(昨年度1・58倍)で3年連続上昇した。民間の調査では、昨年度採用予定数に達しなかった企業は6割近くという数字も出ており、引き続き企業の採用意欲は全般に高かった。夏休みなどに行われるインターンシップや説明会に参加した学生が早期選考に呼ばれる割合も高まっており、採用活動の早期化は一層加速した。結果、3年次生のうちに、就職先から内定をもらった割合は24・3%(昨年度21・1%)と増加しているが、一方最も多くの学生が就職先から内定を得たのは6月と昨年と同じ月となった。志望する業界や企業によっては、内定をもらっていても第一志望の企業に決まるまでの期間が長くなり、学生優位の採用状況とはいえず、精神的に疲弊する状況が生み出されている。

本学では、これまで4月に実施していた初回の就職ガイダンスを3月に早めて開催した。これは、コロナ禍中の入學によって教員や友人との関係を保つことが難しくなっている中、思い描いていた大学生活の計画を見直して、やりたいという目的があった。ガイダンスでは今後の就職活動のスケジュールのほか、これから募集する留学や体験型の授業科目、また学内で参加できる他の学生との協業プログラムや各種体験の紹介を行った。

企業の採用面接においては、こういった学生の状況を踏まえ、学生時代に力を入れた経験の代わりに、学業面に関する質問を増やしたところが多かった。こういった目的でゼミや履修科目を決め、どのような知識・能力を得たのか、またどの科目に一番力を注いだのかなど。採用担当者からは、大学での学びに関する質問をすることで、学生の計画性や志向性、興味・関心を知ることができたという声もあり、今後とも

学業面に関する質問は面接での重要な項目の一つとなっていくと思われる。入学直後から授業をはじめとして、さまざまな活動が延期や中止、または自宅からのオンライン参加となる中、思い描いていた大学時代とは異なる環境に戸惑いや不安を覚えた学生も多くあったと推察する。3月1日現在、進路決定届を提出した学生の進路満足度は、93・7%(「進路に満足」「やや満足」と回答した学生の割合、昨年度の92・2%から微増した。健闘を多ししたい。

■公務員
本学の国家公務員試験合格者は、総合職13人(昨年度10人)、一般職22人(昨年度34人)。全国的な傾向として国家公務員の受験者は減少が続き、合格率は減少が続いている。一方、今年度から受験可能年齢が引き下げとなった総合職職域区分に関しては受験者は増加の傾向にある。

24年度の試験日程は23年度から変更があり、国家総合職の試験が4月上旬から3月中旬となる。

国家一般職および外務省専門職は6月上旬に開始。また、東京都や特別区、地方公務員も全体的に日程を前倒しする予定。全般的に、公務員1次試験日が民間企業の採用活動本格期に重なる。併願を考えている学生は、双方のスケジュールを見据えた対策と準備が必要となる。

昨年度に引き続き学内で開講した公務員試験対策講座は、対面型講義の一部WEBを取り入れたハイブリッド形式で実施。50人(昨年度58人)が受講した。24年度は対面型講義を中心とし、5月下旬から開講予定。

■教員
公立学校の教員採用試験は、本学学生の受験者が多い東京都・高共通の場合、全体の受験者数は前年度の3681人より減少し、2962人だった。競争率は前年度比1・1ポイント減の1・8倍、合格者は1617人であった。

私立学校の常勤教員の採用募集は、4月から始まる。教育実習や企業の就職活動時期と重なるため、計画的に準備を進め

外国人留学生・留学経験学生
外国人留学生は学業や日常生活を優先し、進路を考え始めることが遅い傾向がある。そのため、日本の採用スケジュールに合わせず、卒業後に就職活動を継続する学生も少なからずみられる。また、世界情勢の影響を受け、自分のキャリアをどの国で積んでいくのかなど、将来の選択に悩む学生は多い。早い時期から進路について考える機会を持つてもらうことが課題である。

海外留学をする者は、4年間で卒業するか、卒業を延期するか、大きく二つに分かれた。留学前から就職活動の準備をし、留学中にオンライン選考を受けたり、海外の就職フェアを利用したりし、帰国後すぐに就職活動に取り掛かるなど、積極的に活動する学生が多くなりみられた。

2024年度 就職活動の現況・見通し

2025年3月卒(主に新4年次生)
就職情報会社などの複数の調査によれば、採用数を「増やす」とした企業は「減らす」とした企業を上回り、2024年度も新卒採用意欲は高いとみられている。

採用スケジュールは昨年同様、「3月広報活動解禁」「6月選考開始」として示されている。しかしながら、3年生の夏のインターンシップや説明会の参加者の中から早期選考を開始するなど、水面下の動きは一層活発になっている。

24卒者の場合、3年生の間に就職先から内定を得た本学学生は24・3%で、全国平均の15%前後を上回っている。例年早

めに内定をもらう学生が多い傾向にあるが、一方、留学や公務員・進学からの方向転換など、さまざまな理由で7月以降に内定をもらう学生も2割ほどいる。新卒者を確保し確保するため、秋以降も採用を継続したり、通年採用に切り替える企業も増えている。企業の採用充足率の平均は7割前後という数字もある。6月以降にキャリアセンターに届く優良な求人も多く、こういった求人紹介を含め、引き続き4年生支援を強化する。周囲の状況にむやみに焦ることはなく、キャリアセンターを活用してほしい。

2026年3月卒(主に新3年次生)
キャリアセンターでは3月19日に実施した「新ガイダンス」から支援を開始した。今後、インターンシップガイダンス、自己分析、エントリ

就職活動は見方次第!



中村 理子
(神神4)
全日本空輸株式会社
株内定

2つあります。1つ目では、十人十色であるから、当たり前に感じず、出会った人とは違ってしまいがちなことに気づいてほしい。同じ人はいない、なんて不思議だと思いませんか。十人十色だからこそ、この世界は色で染まらず、様々な色で輝いていると私は考えています。

そして2つ目は、ご縁があるからです。全社十色です。しかし、就

接では緊張した姿を披露し、ネガティブ思考に陥る時期もありました。しかし今となっては、就活はポジティブ思考の人が向いていると感じます。単にお祈りメールを引きずらないうことではななく、日常の些細なエピソードをプラスに捉え、自身の魅力を見出し、そこからアピールすることにポジティブ思考な人は長けています。面接官は長所を本質とするような要素が眠っていることもあり、面接官が聞いてくれるような経験をしてほしい。大学生はほんの一握りですが、今考えるだけで、大半の大学生の生活はあまり大差がないように思っています。差が出るのは考え方と話し方です。ぜひ、まずはポジティブを気取ってみてくださ

ポジティブを気取る



播本 昂希
(文史4)
株式会社清製粉
株内定

私の就活は、部活が忙しく割ける時間も多くない中、多くのESでふるい落とされ、面接では緊張した姿を披露し、ネガティブ思考に陥る時期もありました。しかし今となっては、就活はポジティブ思考の人が向いていると感じます。単にお祈りメールを引きずらないうことではななく、日常の些細なエピソードをプラスに捉え、自身の魅力を見出し、そこからアピールすることにポジティブ思考な人は長けています。面接官は長所を本質とするような要素が眠っていることもあり、面接官が聞いてくれるような経験をしてほしい。大学生はほんの一握りですが、今考えるだけで、大半の大学生の生活はあまり大差がないように思っています。差が出るのは考え方と話し方です。ぜひ、まずはポジティブを気取ってみてくださ

なりたい自分になる



和知 真樹
(総教4)
川越東高等学校
内定

「教員はブラック」、みなさんこの言葉を聞いたことはありませんか。給特法に基づく固定残業代の制度や紙文化など、学校の「闇」ともいえる部分は、枚挙にいとまがありません。私は中学生のころから教員を夢見ていましたが、このことが不安であり、また周囲の反対もありました。しかし、私は自分の信念を貫き、4月からは教員としての一歩を踏み出します。

ここで皆さんに伝えたいことは、なりたいたいことを心より応援しております。